

日本海総合病院／酒田医療センター 広報誌

あきほ

第9号

2011年3月



屋上ヘリポートでの県消防防災ヘリコプター
発着、患者搬送訓練（平成22年10月20日）

目次

「救命救急センター」稼働	2	トピックス	7
「ちょうかいネット」スタート	4	病院からのお知らせ	8
がん診療最前線「肝がん」	6		

救命救急センター

日本海総合病院救命救急センターが稼働します。

庄内唯一の施設

救命救急センターとは、命に関わる突然の病気、予期せぬ交通事故などで重症となった患者さんを365日24時間体制で受入れ、高度な救急医療を提供する施設です。日本海総合病院の救命救急センターは、庄内地域では初めての設置となります。県内では県立中央病院、公立置賜総合病院に続いて3例目です。

当病院ではこれまでも救急外来で脳卒中や心筋梗塞など重症な患者さんの受入れを行ってきましたが、屋上へリポートの整備、専門医師の配置などにより人員体制を強化し、救命救急センターとして4月1日よりスタートします。



万全の体制で

救急車搬送された患者さんの治療を行う高度処置室には緊急手術にも対応できる設備があり、X線レントゲン撮影室、経過観察室なども整備されています。また、院内各診療科との迅速な連携により、専門治療が必要な場合は速やかに各専門医を招集して治療を行います。



救急車出入口と屋上へリポート

屋上へリポート

病院屋上には融雪装置付きへリポートを設置して、庄内全域と最上、秋田県南の地域からの患者搬送と、鳥海山の山岳事故、日本海の高難事故の救助者搬送について、消防防災ヘリや県警ヘリからの直接受入れが可能となりました。今までは最上川河川敷へリポートから救急車に乗換えて病院まで搬送していましたが、病院へリポートでの直接受入れによって、搬送時間が短縮され、患者さんの負担が減ることになります。



医師
緑川 新一

日本海総合病院救急外来は日本海総合病院救命救急センターとして生まれ変わります。

救命救急センターの役割は、他の一般医療機関では救命が困難な重症な方や、救命のために緊急の処置が必要な方に対して、24時間体制で治療を行うことです。

救急受診が集中してその機能が損なわれることを避けるため、地域の医院・病院・休日診療所などが最初に診療を行う場としての役割を担っています。

一方、救命救急センターは他の一般医療機関では対応困難と判断された重症の方を受け入れる最後の砦としての役割を担います。

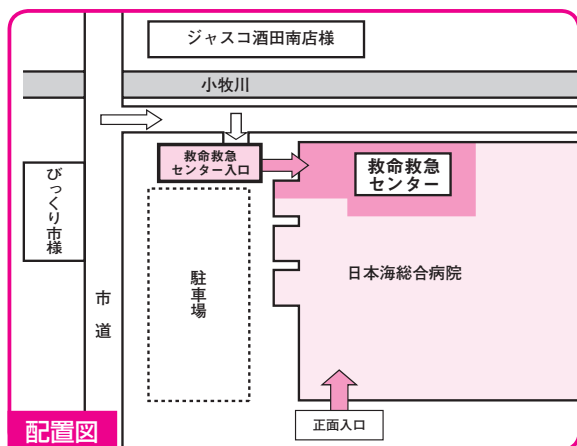
酒田地区および庄内地域における救急の役割がこれまでとは変わり、ご不便をおかけする面もありますが、ご理解とご協力をお願いします。



看護師長
齋藤 恵美

昨年10月に新棟移動を終え、ついに救命救急センターの看板を掲げる時がきました。急性期病院の使命を果たし、北庄内における救急医療を担う施設として、救命救急センターの名に恥じないように努力してまいります。

私達は、救命救急センターを受診される患者さんが、痛みや不安



当病院内に酒田消防署の救急隊13名と救急車が常駐する「酒田救

救急ワークステーションを新設

な気持ちを少しでも軽減させることが出来るように、チームで医療にあたっています。その中で看護師は、目配り・気配り・心配りをし、一刻を争う救急医療の現場にあっても看護の温かみを大切にしていきたいと思っています。

地域の皆さんのご協力をいただき、医療の役割分担の中で安全・安心・信頼の医療の提供に努めていきたいと思っています。



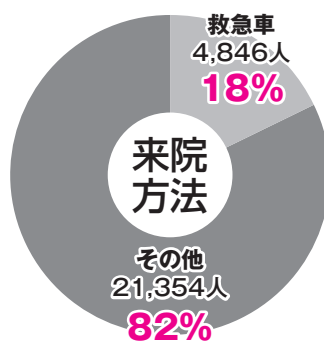
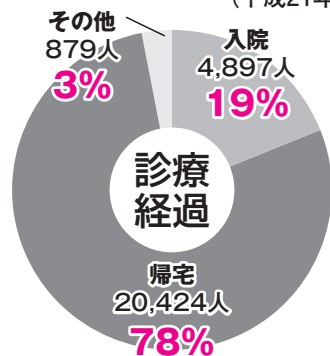
昨年度の日本海総合病院と酒田医療センターを合計した救急の患者数は、26200人で、うち救急車来院は4846人でした。診

救急車来院1日平均13・3人

急ワークステーション」が新設されます。院内設置により病院と消防機関の連携強化が期待され、救急救命士の研修など教育の拠点としての役割も担います。今後、病院の医師が救急車に同乗して現場から救命活動を行う「ドクターカー」の導入についても検討していく予定です。

救急外来の状況

(平成21年4月～22年3月)



療経過は、4897人が入院、20424人が帰宅しています。

1日平均では、患者数71・8人、救急車来院13・3人となっています。

当救命救急センターは、救急車搬送だけでなく、休日・夜間に救急車以外で来院される患者さんについても救急外来として受け入れをいたします。しかし、「夜間だと待ち時間が少ないから」「昼間は仕事があるから」との理由で軽い症

平日夜間救急体制が強化されます

強化されます

日本海総合病院では、救急外来の患者さんの増加により、勤務医への負担が大きくなり、過重労働の大きな要因となっています。

このような状況を改善するため、酒田地区医師会と酒田市の協力のもと、4月より平日の夜間における救急外来に医師会会員医師の診療応援をいただくことになりました。

- 1 かりつけ医での受診
 - 2 通常の診療時間内の受診
 - 3 比較的症状の軽い方は酒田市休日診療所の受診
- 状態でも受診する患者さんが後をたちません。救急外来が混みあうと命にかかわる重症患者さんへの対応が遅れる恐れがあり、地域の救急医療体制が維持できなくなる心配があります。このため、受診に際して次の3つについてご理解をお願いいたします。

地域医療の新しい
ステージがはじま
ります。

「ちようかいネット」

4月1日
スタート



医師不足

臨床研修制度の改正等の様々な要因により、全国的に産科・小児科といった専門診療科や救急・へき地医療を支える医師不足が問題となっています。これら医師不足は地方ほど傾向が強く、患者さんが集中する病院では、医師の過重労働が続き医師が疲弊してしまうケースが増えています。

このような状況が長く続くと地方から医師が中央に流れてしまう心配があります。

地域完結型医療へ構造転換

これまでの「病院完結型医療」から「地域完結型医療」へと構造変換する必要があります。このた

めには、急性期→回復期→在宅に至るまで地域ぐるみによる疾病管理と継続的ケアを行い、患者さんの視点に立った、安全・安心で質の高い医療が受けられる体制を実現することが求められます。

酒田地区医療情報ネット
ワーク協議会

平成22年5月に、酒田地区の医療・福祉が連携した地域医療連携体制を進めるために、酒田地区医療情報ネットワーク協議会を設立しました（構成委員 酒田地区医師会、酒田地区歯科医師会、酒田地区薬剤師会、市立八幡病院、山形県・酒田市病院機構、庄内総合支庁、酒田市）。

協議会では、地域の医療機関、福祉施設が診療情報を共有することにより、患者さんに急性期から回復期を経て自宅に戻るまで一貫した治療方針のもとに切れ目ない医療ができる地域医療連携体制をつくることを目的としています。

そのために、診療情報を共有するためのＩＴシステムの導入を決定し、この連携ネットワークの名称

を「ちようかいネット」と命名しました。

「ちようかいネット」の由来

鳥海山は日本百名山・日本百景のひとつで、日本海にすそ野を浸す秀峰は、庄内平野のどこからでも望むことができる庄内人のランドマークであり、ふるさと・庄内のシンボルの存在です。「ちようかいネット」は、庄内平野を抱くようにそびえる鳥海山の雄大な姿に、医療情報ネットワークで結ばれた地域医療・福祉施設の大きな輪を重ね合わせ、

この名前がつけられました。「ちようかいネット」は地域の医療・福祉施設が連携し一体とな

って地域の皆さんに医療を提供していく、そのような意味が込められています。



「ちようかいネット」の機能

「ちようかいネット」は、医療・福祉施設が個人情報保護機能の万全なインターネット回線により診療情報を共有します。日本海総合病院と本間病院の診療情報を診療所などに開示する機能と「ちようかいネット」に参加する医療・福祉施設の間で情報を交換する機能の大きく2つの機能があります。

患者さんの主なメリット

- ① 患者さんが診療を受ける病院や診療所などで情報を共有するため、一貫した治療を受けることができます。
- ② 重複した薬の処方、検査を防ぐことができ、医療費の負担軽減になります。

診療情報の共有機能

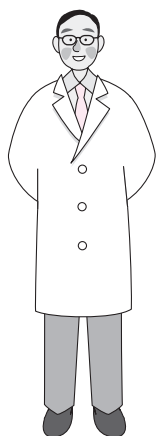
日本海総合病院と本間病院に地域医療再生基金による県の補助事業でシステム専用のサーバを置くことができました。これにより、日本海総合病院と本間病院の電子化して管理された診療情報を診療

所などでインターネット回線を使
ってみることができます。

共有する診療情報は診療録、処
方、検査結果、CT画像などの情
報です。例えば、病院から診療所
へ患者さんを紹介する場合には、
患者さんが診療所を受診する前に
診療所で情報を得ることができま
す。このため、診療方針を早い段
階でたてることができま。また、
検査結果や画像データも共有でき
るために検査を重複して行うこと
がなくなります。

ー 共有する診療情報 ー

- ・診療録
- ・お薬の処方
- ・血液検査結果
- ・レントゲン、CTの画像情報など
- ・退院情報、レポートなど



ファイル機能とノート機能

セキュリティを確保しつつワー
ドやエクセルなどのファイルによ
り、病院と診療所などの間で診療
文書の交換ができます。このファ
イル機能を活用して地域連携パス
のやりとりを行うことができるよ
うになります。

ノート機能は、診療
メモとして活用でき
ます。例えば、訪問看
護などで在宅訪問し
た場合に、病院の医師
と出先の看護師が簡
単な診療メモのやり
とりができます。

共有情報の限定

診療情報は患者さ
んが指定した医療施
設でのみ共有しま
すので、指定してい
ない医療施設ではみ
ることはできません。

また、患者さんが診
療情報を医療施設間
で共有することを希

望しなくなった場合は、撤回届を
提出していただくと情報の共有を
速やかに停止いたします。

ご自分の診療情報を共有 するための手続き

「ちようかいネット」に登録し
ている医療施設に、患者さんが診
療情報を共有するための届出書を



提出します。その際に患者さんは、
ご自身の診療情報を共有する医療
施設を登録医療施設から指定しま
す。患者さんの費用負担はありま
せん。

患者さんへのカルテ開示 ではありませんので注意

この診療情報の共有は、医療施
設間での情報開示であり、患者さ
んにカルテを開示することではあ
りません。ご自身のカルテ開示を
希望する場合は所定の手続きが必
要になります。

最後に

「ちようかいネット」に関する
ご質問は事務局までお問合わせく
ださい。

酒田地区医療情報ネットワー
ク協議会事務局

（日本海総合病院内）
TEL 0234-2612001





肝がん



肝臓に出来る悪性のしこり（「肝がん」は、肝臓由来の細胞から出来る肝細胞癌や肝内胆管癌と、胃癌や大腸癌が転移した転移性肝臓癌とに大きく分けられます。今回は、肝臓由来の肝細胞癌についてお話します。

2009年の癌死亡数の男性では第3位、女性では第6位、全体では第3位となっており、約34000人のかたが死亡しております。予後の悪い癌と言えます。また、肝細胞癌の難しいところは、手術を行い、1カ所しつかり切除しても、異時性^{※1}に別部位にできたり、肝予備能によって、肝臓の切除量や治療法が制限されることです。逆に、肝臓の予備力、肝細胞癌の状態によって、肝臓外科・肝臓内科・放射線科が協力して治療を行う総合的な治療が必要で、病院の

実力が問われると言えます。

肝細胞癌は、B型やC型肝炎を基礎疾患とするものが全体の80-90%を占めると言われます。しかし、他に肝炎ウイルス感染が無くても、アルコール性肝硬変や自己免疫性肝炎、最近注目のNASH（非アルコール性脂肪肝炎）も原因となります。

肝臓の治療は肝炎の治療から

肝細胞癌の大きな特徴は、B型、C型肝炎を基礎にし、肝炎が悪化し、肝細胞が壊され、再生を繰り返していくうちに肝硬変となり、癌が出来ていくと考えられています。と言うことは、肝炎を悪化させないことが、最も重要な癌の予防となります。現在、肝炎治療のガイドラインも策定され、肝炎の種類・肝機能・肝炎ウイルスの種類・量によって、インターフェロンや抗ウイルス薬など様々な治療が行われています。当地区でも健診にてC型肝炎抗体のスクリーニ^{※2}

ングを行っております。肝炎の有無を明らかにし、早めの肝炎治療を行い、癌の発生を少なくするため、定期的に画像検査や肝細胞癌に関連する採血検査をすることが大事です。

肝細胞癌の治療

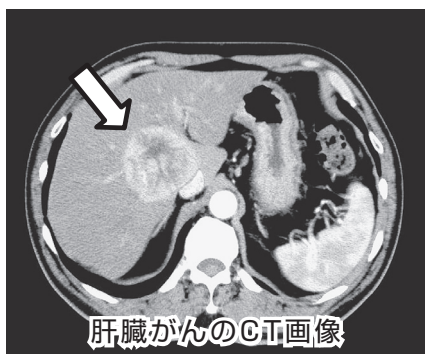
肝細胞癌の治療は、大きく分けて、切る（手術で切除）、刺して焼く（ラジオ波など局所焼灼療法^{しょうしやく}）、癌の血流をふさぐ（肝動脈塞栓術^{そくせん}）の3つの方法があります。それに持続的に抗癌剤を入れる肝動注療法や、肝移植、分子標的治療薬などをを使う場合もあります。肝臓診療ガイドラインに沿って、肝細胞癌の大きさ・数・部位などの癌の状況や肝予備能によって、どの治療が最も適しているのか判断し治療が行われます。手術が可能であれば、手術治療が最も効果があり、肝臓外科としてはしっかりと切除することを目指しています。2002年以降、酒田で100例以上

の肝細胞癌の手術を行ってきましたが、以前は他病院に紹介してきたような難しい例も、東北大学病院移植再建内視鏡外科から応援をいただき治療を完結できるようになりました。手術以外でも肝臓内科・放射線科と連携を組み積極的な治療を行っており、肝移植以外については全て行える体制を作っています。

外科副部長 白幡 康弘

※1 異時性＝同時期ではなく間隔を置いて別時期

※2 スクリーニング＝広く浅く検査して疑わしい病気を検出すること



肝臓がんのCT画像

医療機器紹介(日本海総合病院)

320列CT

CTは、身体の周囲からX線を当てて体の輪切り写真を撮る装置です。当病院では平成22年11月に、最短1回転(0.35秒)で心臓や頭部全体を撮影できる320列CTを導入しました。

撮影時間の短縮で、被曝量や造影剤量を最小限に抑えることができ、患者さんの負担が軽減されました。胸部から腹部にかけての大動脈瘤をはじめとする困難な症例に対して、いっそう高度な診断、治療が可能になりました。

3.0T(テスラ)MRI

MRIは強力な磁場を利用して身体の内側の様子を撮影する装置です。当病院では平成23年2月に、新しく3.0T MRIを導入しました。T(テスラ)は磁場の強さを表す単位で、既存の1.5T MRIと比較すると、磁場強度、信号強度が2倍となり、より高解像度の画像が得られます。ただし、体内金属への注意がさらに必要となりました。患者さんの状態にあわせて、1.5T MRIとの使い分けをしていきます。



市民公開講座(緩和ケア講演会)

12月4日(土)ホテルサンルート酒田において、順天堂大学医学部 樋野興夫教授をお迎えし「がん哲学外来－医療の隙間を埋める偉大なるお節介－」と題して、ご講演いただきました。診察ではなく、時間をかけて対等な立場で対話を行い、患者さんの心の痛みと向き合う「がん哲学外来」においては「偉大なるお節介(他人の必要に共感すること)と暇げな風貌」での対応が大事であると、時折笑いを交えてお話になられました。市民の皆さんや医療福祉関係者など約180名の参加をいただきました。



クリスマス音楽会

12月23日(祝日)日本海総合病院エントランスホールを会場に「クリスマス音楽会」を開催し、入院中の患者さんに楽しんでいただきました。出演は、混声合唱団「コーロプリモ」の皆さんと病院職員によるハンドベルサークル「ミッキーズ」で、クリスマスにちなんだ曲を中心に披露していただきました。サンタさんが登場して子どもたちにプレゼントを渡す一幕もあり、会場は楽しいクリスマスの雰囲気に包まれました。



病院からのお知らせ

美容室「こすもす」オープン

日本海総合病院の1階売店の奥に美容室がオープンしました。運営は、山形県美容業生活衛生組合酒田支部で、入院・外来患者さんに癒しのひとときを提供しています。

車椅子でご来店いただいても利用しやすいよう、回転式の椅子をご用意していますので、シャンプーの時に移動の必要がありません。どなたでもお気軽にご利用ください。

営業日 月曜日～土曜日
営業時間 午前9時～午後6時（予約できます）
休業日 日曜、祝日、年末年始
電話 0234-24-5526
料金 パーマ6,500円～、カット3,000円～



小学校から車いすをいただきました

2月24日（木）、酒田市の三中学区内にある亀城小、松原小、港南小の3校児童会から、車いす2台を寄贈いただきました。3校児童会は毎年合同のリサイクル活動しており、今年は各校で回収した牛乳パック5,000枚ずつを持ち寄り、車いすを購入してくれたものです。

日本海総合病院のエントランスホールで贈呈式が行われ、3校の児童代表から当病院の佐藤副院長らに車いすが手渡されました。3校には、当病院から感謝状が贈られました。佐藤副院長が「一人一人の優しさと思いやりのいっぱい詰まった車いす、胸が熱くなりました。大事に使わせていただきます。」とお礼の言葉を伝えました。



シャトルバス「げんきGO」の運行

日本海総合病院と酒田医療センターの病院間無料シャトルバス「げんきGO」は、6月末まで今までどおりのダイヤで運行します。7月以降も運行を続けますが、運行本数を少なくする予定です。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解願います。

認知症疾患医療センター

4月1日より日本海総合病院内に開設します。詳しい内容につきましては、病院ホームページをご覧ください。

URL: <http://www.nihonkai-hos.jp/hospital/>

人間ドックのお知らせ

4月から日本海総合病院で人間ドックを実施します。1泊2日のコースのみで、半日コースは実施いたしません。1回の受入れ人数には限りがありますので、ご了承ください。受診はすべて予約制となっています。

◎実施日・定員 毎週水～木曜日 定員3名
◎料金 男性118,870円 女性134,540円
追加希望検査料金
肺がん検査（喀痰細胞診）4,520円
前立腺がん検査1,790円

※検査項目は病院窓口かホームページでご確認ください。

申込先 日本海総合病院
1階エントランスホール 検診担当窓口
電話 0234-26-2001（内線8255）

東北地方太平洋沖地震のお見舞い

3月11日、マグニチュード9という国内観測史上最大の規模を記録した東北地方太平洋沖地震において被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、多くの方々の尊い命が失われたことに、深い哀悼の意を表します。

当機構では、災害時派遣医療チーム（DMAT）、日本赤十字社の救護班としての被災地への職員派遣、被災地からの患者様の受入れなどを行っていますが、今後もできる限りの支援をしていきたいと考えております。

被災された方々とそのご家族が、一日も早く平穏な生活を取り戻されますよう心よりお祈り申し上げます。

地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 理事長 栗谷 義樹

広報誌「あきほ」 第9号 平成23年3月（季刊） 発行部数：2,500部

編集発行 ● 地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 広報企画委員会（事務局：法人管理部）
〒998-8501 山形県酒田市あきほ町30番地 TEL 0234-26-2001（代表） FAX 0234-26-5114
URL: <http://www.nihonkai-hos.jp/> E-mail: kanribu@nihonkai-hos.jp

印刷 ● 株式会社 光印刷